



男女共同参画社会とは、世代や性別にかかわらず、誰もが自分らしく暮らせる社会です。
そのためにも、私たちの住む地域や身近な社会生活について、行政と市民が互いに知り、学び、考え、発信し合い、共に社会をつくって動かしていきましょう。

みんなちがって、みんないい ～多様性を認め合う社会へ～

▶東京オリンピック・パラリンピック開催の裏側で…

令和3年度の大イベントといえば…。
1年の延期を経て開催された東京オリンピック・パラリンピック競技大会を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。

日本の選手団は、オリンピックで金メダル27個を含む過去最多58個のメダルを、

パラリンピックでは金メダル13個を含む過去2番目に多い51個のメダルを獲得するという素晴らしい成績を収めました。

数々の感動的な名場面の裏側で、多様性やジェンダー平等へ配慮した取り組みがなされていたことはご存じでしょうか。

取り組みの一例

- 女性選手の参加割合増加
オリンピック約48%、パラリンピック約42%（大会史上最高）
- 男女混合種目の増加
オリンピック9種目→18種目、パラリンピック38種目→40種目に増加
- 開会式で男女の選手1名ずつが旗手を務めるよう推奨
- アスリートなどへの性的ハラスメント目的の撮影の禁止
- 大会スタッフのユニフォームに、性別・国籍・年齢を問わず着用できるデザインを採用
- オリンピック組織委員会の理事における女性の割合を42%に引き上げ

性の多様性が注目された大会でもありました。オリンピックで186人、パラリンピックで36人の選手が「LGBTQアスリートである」と公表しました。

また、オリンピック史上初めて、男性か

ら女性に性別を変更した重量挙げ選手が出場したことも話題になり、性的マイノリティや身の回りのジェンダー平等について考える機会となりました。



▶一人一人の違いを認識することから始めよう

“多様性”は性別の違いだけではなく、人種、年齢、価値観、国籍、宗教、障害の有無などの違いも含まれます。



グローバル化が進んだ現代では、外国籍の人と接する機会は珍しくありませんし、障害のある人と一緒に働いている人もいます。

自分と異なる人を、「違うから」という理由で一方的に排除したり、認めなかったりというのではなく、一人一人がお互いの違いを認め、正しい知識を持って理解を深めていくことが大切です。

多様性を認め合うことは、誰もが幸せに暮らせる男女共同参画社会につながります。

用語解説

【LGBTQ】

レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーなどの性的マイノリティ（少数者）の総称のひとつです。

誰もがいきいきと活躍できる職場に！

男女共同参画社会づくり宣言制度は、男女共同参画社会づくりに取り組む事業所や団体を応援するために県が実施している事業です。従業員の子育てや介護、個性と能力の発揮、ワーク・ライフ・バランスの実現など、男女共同参画社会の推進に積極的に取り組むことを宣言した事業所、団体を登録しています。

市内では50の事業所が宣言しています（令和4年1月1日現在）。
※宣言内容は紙面の都合上、一部編集させていただきます。

制度に関する問合せ先 静岡県男女共同参画課
TEL 221-3363 FAX 221-2941

今年度新たに宣言した事業所を紹介します

社会福祉法人東益津福祉会 特別養護老人ホーム高麗



- 職員全員がその能力を発揮し、仕事と生活の調和を図り働きやすい雇用環境を整備
- 女性が自身の価値観に応じたキャリアプランを実現でき、生き生きと働き続けることができる企業風土づくり

株式会社ニッシン



- 男性女性問わず、全ての従業員が平等に能力を発揮できるよう意識改革を進める
- 育児、介護休業を取得しやすい制度、体制の整備
- テレワークなど、仕事と生活の調和のための制度の整備
- スキルアップのための研修制度を導入

株式会社アンビ・ア



- 女性比率のアップ
- 女性が活躍できる環境の整備
- 時間管理の徹底とワーク・ライフ・バランスの推進